
2025年

令和7年度
事業報告書



NPO法人共働のまち大野城

令和8年5月

令和7年度を振り返って

令和7年度は「切磋琢磨」を標榜し職員同士がスキルアップに励み、次の段階へ踏み出す重要な一年になりました。県の受託事業である「コラボミーティング」への挑戦は、地域内外の多様な主体との連携を深め、新たな共働の可能性を実感する成果となりました。また、職員の研修などの積極参加が功を奏し、相談支援をはじめとした専門性の向上が組織全体の底上げに寄与しており、職員による「地域力UPサポートメニュー」の開催につながりました。

これらの取り組みは、持続可能な地域づくりを進める上で欠かせない基盤となり、当法人が地域に寄り添いながら役割を果たすための大きな力となりました。今後も、地域と行政、企業をつなぐ立場として、柔軟かつ着実な運営に努め、地域に必要とされる存在であり続けたいと考えています。皆さまのご支援に深く感謝申し上げます。

令和8年4月

NPO法人 共働のまち大野城

理事長

穴井 芳春



名称	NPO法人共働のまち大野城		
設立	平成31年4月1日		
所在地	福岡県大野城市南ヶ丘5丁目9番1号		
会員数	正会員		
	(個人) 33人	(団体) 29団体	
会員数	賛助会員		
	(個人) 75人	(団体) 8団体	



事業概要

ボランティア活用事業

01 使ってバンク「暮らしのサポート事業」

- ・地域住民同士のつながりを広め地域の中でお互いに支え合う意識を醸成することでお互い様の輪を広げていく。

02 大野城市公益活動プラトホーム事業

- ・市民公益活動への市民の参加促進、活性化、市民公益活動団体の連携及び共働を推進していくことで、活気あふれる地域を維持・継続していくための環境を整備する。

担い手発掘事業

03 サロン事業

- ・コミュニティセンターを活用し、市民同士の情報交換や交流を図り、各地区コミュニティにおけるコミュニティ活動の発信の場とすることで、コミュニティ活動を担う人材の発掘を行う。

04 天体事業

- ・スタードームまどかや天体観測に関する機器等を活用し、市民の天体に関する関心を高め地域のにぎわいを創出するとともに、青少年育成を行い、天体を通じて将来の夢につながるような事業を行うもの。

団体への助成事業

05 大野城市コミュニティ活動応援ファンド事業

- ・地域課題解決を目的として行う事業又は、コミュニティ活動に取り組む団体を対象として助成金の交付を行い、地域課題解決へとつなげる。

まちづくりを推進するための事業

06 まちづくり推進事業

- ・地区コミュニティの個性や特長、地域資源を活かしまちづくりに携わる事業を行う。

情報提供・相談支援事業

07 相談・養成支援事業

- ・パートナーシップによるまちづくりの推進を目的とした、団体または個人に対する中間支援に関すること。

08 情報発信・提供事業

- ・パートナーシップによるまちづくり活動に関する情報の収集及び提供に関すること。

調査及び研究事業

09 買い物支援事業

- ・地域における日常の買い物等が困難な市民に対して、買物代行などの支援を行うことで地域における買物弱者問題の解決を図る。

コミュニティセンターの管理運営及び施設の貸出事業

10 コミュニティセンターの管理運営及び施設の貸出事業

- ・パートナーシップによるまちづくり活動の支援に必要な施設備品等の貸出及び管理に関すること。

その他目的を達成するために必要な事業

11 自主事業



令和7年度事業計画

- ▶多様化する相談に対応するため、関係機関および地域との連携体制を強化する。
- ▶各地域での会合等の機会を活かし、本事業の周知・広報を継続的に実施することにより、地域住民への利用促進や新規「おタスケさん」の登録推進を図る。

事業報告

《実施状況》

- ・担当者会議 6回 作業部会 1回
- ・おタスケさん交流会 8回
- ・おタスケ新聞 13号、14号の発行
- ・使ってバンクアンケート 710人回収
- ・事業PR活動 60回
- ・未活動のおタスケさんの洗い出し月間（2月～3月）
未活動おタスケさん 5人→1人
- ・ふーちゃんゼミナール「障がいてどんなこと？」受講
- ・イベントPR活動「おタスケさん登録会」実施
「おおの山城大文字まつり」「キッズフリーマーケット」

【関係機関・地域との連携体制強化】

多様化する相談の中には、おタスケさんでは対応が難しいケースも増えていることから、地域包括支援センターや社会福祉協議会、シルバー人材センターや商工会加盟店など関係機関と連携し、地域のお困りごとを地域全体で支える体制づくりに努めた。

相談件数2,454件の内、他の機関につないだ件数73件

【周知活動】

組長会や、福祉部、民生委員定例会での事業説明会に加え、新たに公民館のサークルや教室などでも説明会を27回実施した。周知対象を広げたことで、新規利用者178人、新規おタスケさん登録者10人につながった。これにより困っている方への直接的な周知と、併せてボランティアに興味を持っていただける機会の推進により地域で支えあいの体制強化を図ることができた。

【使ってバンク周知アンケート】1月実施 配布数 710枚 回答数 608人

事業の周知を目的としたアンケートを実施した。その結果「知らない」と回答した人が半数以上を占め、認知が十分に浸透していない現状が明らかとなった。この結果を踏まえ、若い世代への効果的な広報手法を検討し、認知度向上に向けた取り組みの強化を図る。

認知度について	知っている	知らない	聞いたことはある
施設利用者	116人	353人	86人
高等学校	0人	18人	4人
LINE登録者	6人	0人	2人
公民館	19人	3人	1人
合計	141人	374人	93人

【各地区おタスケさん登録内訳】



- ・新規登録**10**人
 - ・登録解除 19人
- ()は令和6年度

おタスケさん総合計3月末 194人

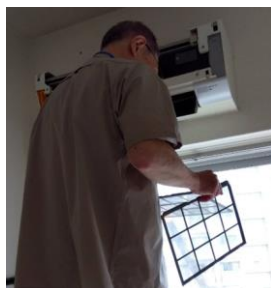
解除理由：仕事が忙しくなった、親の介護や引っ越しなどで活動が難しくなった。

【交流会・おタスケ新聞】

「交流会」を各コミ2回（計**8**回）開催し、おタスケさん同士の交流を深めるとともに、事業への理解や、継続的な活動につながる関係づくりに努めた。「おタスケ新聞」では、おタスケさん紹介や4コママンガなどを掲載して親しみやすい内容で活動に関する情報発信を行った。

【ボランティア活用促進】

未活動のおタスケさんを把握し、活動の依頼に偏りがないように調整を行った。その結果より多くのおタスケさんの活動機会の確保につながった。また網戸張替えや、包丁研ぎなどおタスケさんの特技を活かした活躍の場を設けることで、能力を発揮できる機会の創出を図った。相談件数**2,454**件の内おタスケさんが活動した件数**2,112**件となり支えあい活動の促進につながった。



フィルター掃除の様子



簾付けの様子



カーテン入れ替えの様子

成 果

相談件数
目標2,300件

2,454件

前年2,311件

達成率**106%**

活動件数
目標2,000件

2,241件

前年2,002件

達成率**112%**

新規おタスケさん
登録数
目標30人

10人

前年 28人

達成率**33%**

周知件数
目標60件

60件

前年55件

達成率**100%**

課 題

- ・事業の認知度向上および利用促進を図るため、引き続き周知方法の工夫と強化が必要である。
- ・相談内容の多様化により、関係機関とのさらなる連携強化が必要である。
- ・おタスケさんの高齢化や、事業の継続性を確保するため、学生や働く世代など若い世代への事業周知が課題である。



令和7年度事業計画

- ▶地域の特性やニーズを踏まえた、公益活動参加促進の仕組みについて検討する。
- ▶健康ポイント制度の活用を通じ、ポイント保有者の公益活動への参加促進を図るため、関係機関との連携を強化する。
- ▶システム改修を実施するとともに、ポータルサイトの利活用状況を分析し、改善に向けたフィードバックの仕組みを構築する。

事業報告

＜実施状況＞

- ・担当者会議 12回 作業部会 1回
- ・連絡会議 1回 ・団体アンケート 1回

【地域の特性やニーズを踏まえた、公益活動参加促進の仕組みについて検討】

【団体アンケート】令和7年10月実施 配布数： 111団体 回答率：93%

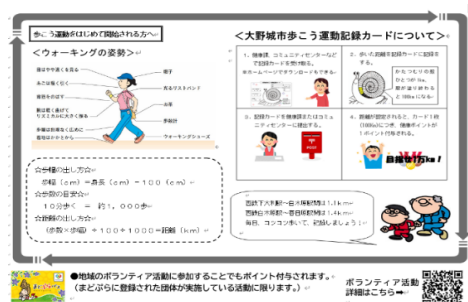
アンケートの結果、担い手がやや不足している、不足しているとの回答が全体の約8割を占め多くの団体が人材確保に苦慮していることがわかった。この結果から、地域団体の担い手不足が共通の課題であることが把握できた。今後は、この課題の解消に向け、参加促進策の検討および具体化を進める。

Q1. ①担い手（スタッフ・ボランティア・後継者）は足りていますか？

	回答	令和7年度
A	足りている	21%
B	やや不足している	45%
C	不足している	30%
D	その他	4%

【健康ポイント制度との連携】

健康課の「歩こう運動カード」にプラットフォーム事業の紹介文を掲載したことで、周知の拡大につながった。また、すこやか交流プラザにおいて、まどぷらカード作成時にチラシを配布してもらうため、チラシ300部を提供し、事業の認知度向上を図った。その結果、公益活動および健康ポイント制度の双方に参加する市民数は、前年度816人から今年度951人へと増加し、対前年度比約16%増となるなど事業の連携による参加促進の成果が見られた。



歩こう運動カード

	令和6年度	令和7年度
公益活動のみ	2,795人	3,252人
健康ポイントのみ	2,601人	2,846人
両方活動	816人	※951人
未活動	1,806人	2,046人
合計	8,018人	9,095人

※健康課と連携し公益活動の促進を強化したことにより健康ポイントのみだった人が公益活動にも参加したことでポイント付与数は増加し目標に到達することができた。

【システム改修・ポータルサイトの利活用分析】

ポータルサイトの利活用促進に向けてシステムの改修を実施した結果、R8年2月より活動の一括登録が可能となり、団体における活動登録作業の効率化および時間短縮につながった。また、これまでボランティアへの参加は直接来所や電話、FAX、メールでの問い合わせが必要であったが、ポータルサイトから直接申し込みが可能となったことで、活動参加の利便性向上および参加機会の拡大につながった。

さらにポイント付与方法の見直しについて検討を行った。団体アンケートにおいて「ボランティア参加者自身によるポイント付与」について質問したところ、**61%**の団体が「良いと思う」と回答した。この結果を踏まえ、団体の負担軽減を図るとともに、ボランティア活動への参加促進につながる仕組みとして、新たなポイント付与方法の導入に向けた検討を進める。

【団体アンケートより抜粋】 令和7年10月実施

Q5. ①ボランティア参加者自身がポイントを付けることについてどう思いますか？

	回答	令和7年度
A	良いと思う	61%
B	どちらともいえない	29%
C	あまり良くないと思う	6%
	未回答	4%



現在：団体スタッフが付与する



検討中：参加者自身で付与する

※ボランティア参加者自身がポイントを付ける仕組みを検討しています。

【R7年度団体フォロー】

R7年度はシステム改修およびタブレット端末の更新に伴い、操作等について団体への支援を行った。また、平野中学校および御陵中学校の地域貢献活動において、各公民館の活動登録やポイント付与に関するフォローを実施したことで、学校と公民館との連携強化につながった。

団体フォロー

78団体 190件
(前年59団体117件)

【学校・区・イベント等での活動】

ボランティア講座実施			
5月	月の浦小学校	480人	全校生徒
5月	大野南小学校	145人	3年生
地域の活動実施			
6月	南地域貢献活動	606人	平野中1年生 平野小学校4年生 大野南小学校3年生 月の浦小学校3年生
11月	御陵中学校	341人	全校生徒
1月	キットパスアート	25人	平野中美術部
イベント			
8月	わくわくアート作品展	102人	南コミ キッズコーナー

区へ事業説明会		
5月	平野台区	福祉部
6月	南ヶ丘2区	福祉部
6月	月の浦区	福祉部
6月	牛頸区	福祉部
7月	若草区	福祉部
3月	南ヶ丘1区	福祉部



大野南小学校講座の様子

【令和7年度 地域活動団体交流会（プラットフォーム連絡会議）】

【令和7年7月4日実施 場所：北コミュニティセンター】

参加人数： 49人

実施内容：①運営管理者より運営状況報告、アイスブレイク
②グループワーク「公民館×地域活動」

・運営状況報告

学校への周知活動に比例して小中学生の個人登録者数が増えていることや、地域で活動している団体が新たに14団体増えたことも含め、地域のボランティア活動が活発になっていることを報告した。



運営状況報告

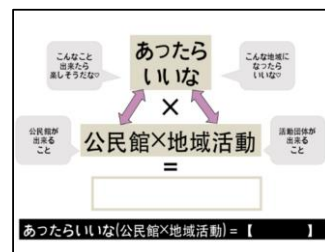


カード交換会の様子

・アイスブレイク

初めて顔を合わせる団体同士が打ち解けやすいように、各団体に自己紹介カードを書いてもらい、お互いに交換しながら団体の活動内容や特徴について紹介してもらった。自然な交流が生まれ、会場全体が和やかな雰囲気となっていた。

今年度は一般社団法人umau.の代表“中村路子”氏をお迎えし、「公民館×地域活動」をテーマにしたグループワークを実施した。今後の地域活動へのヒントや新たなつながりが生まれるグループワークを実施。参加したすべての団体から「他団体との交流が出来た」との意見が寄せられ、交流会の目的である団体間のつながりができた。



成 果

まどぷら登録者数 目標9,200人	登録団体数 目標120団体	ポイント付与数 目標42,500pt.	周知件数 目標250件
9,095人 前年8,018人	115団体 前年110団体	43,656pt. 前年37,074pt.	297件 前年230件
達成率 99%	達成率 96%	達成率 103%	達成率 119%

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
団体数	98団体	110団体	115団体 (新規6団体)
活動登録件数	5,802件	6,548件	6,699件
まどぷら登録者数	6,254人	8,018人	9,095人
1人当たりの平均pt付与数	4.2pt	4.6pt	4.8pt

課 題

- ・小中学生を含むまどぷら登録者のボランティア参加率が低調であることから、参加機会の創出や情報発信の工夫など、参加促進に向けた新たな働きかけおよび環境整備が課題である。
- ・プラットフォーム登録団体数は増加しているものの、団体同士の連携や協働につながる機会が十分とは言えず、交流機会の創出が課題である。
- ・登録団体の活動状況に差が見られるため、活動の活性化に向けた支援や情報発信の強化が必要である。
- ・プラットフォームの認知度が十分とは言えないため、市民や団体に向けた周知の強化が課題である。



担い手発掘事業

03

サロン事業

令和7年度事業計画

- ▶市民ニーズについての調査研究を目的としたアンケートの実施。⇒R8年度反映
- ▶サロンボランティアの支援体制の強化。

事業報告

《実施状況》

- ・担当者会議 5回
- ・育成 6件（卒業）
- ・サロンボランティアフォロー 46回

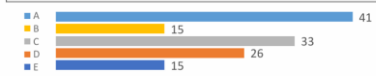
【アンケート実施】令和7年8月～令和7年12月 回答96人

地域住民が気軽に集い交流できる場作りを目的として、来館者、サロン参加者およびホームページを通じてアンケートを実施した。その結果、参加を希望するサロンの内容として、テーブルゲーム（トランプ・麻雀・ボードゲーム等）が最も多く、次いで芸術・アート（絵画・音楽・文学等）に関する内容へのニーズが高いことがわかった。また、20代30代からは、親子参加や子育てに関するサロンを希望する意見が多く見られた。本アンケート結果により、多様な世代ごとのニーズを把握することができた。今後はこの結果を踏まえ、参加しやすいサロンの提案などを行い、地域住民の交流機会の創出及び参加者の拡大につなげる。

交流の場・集いの場アンケート結果報告

地域の皆さまが気軽に集い、交流できる場をつくるためのアンケートを、パートナーシップ活動支援センターホームページ・コミュニティセンター来館者に向けて実施しました。アンケートの結果をご報告いたします。
期間：令和7年8月～令和7年12月 回答数：96

Q1. どんな交流の場・集いの場に参加したいですか。 ※複数選択可	
A・テーブルゲーム（トランプ・麻雀・ボードゲームなど）	41
B・学習を通じた交流（キャリアアップ・スキルアップなど）	15
C・芸術・アート（絵画・音楽・文学など）	33
D・親子向け（ふれあい遊び・育児相談など）	26
E・その他	15



- E. その他ご意見（一部）
- ・簡単に作れて学べて食べれる食事会など
 - ・離乳食について
 - ・室内スポーツ、体を動かすこと、ダンスサークル
 - ・着物を着て気軽に参加できる場
 - ・防災講座、防災料理など防災意識を高める場
 - ・学生向けの交流の場

アンケート報告一部抜粋

【ボランティア支援】

中央コミュニティセンターの抹茶サロンにおいて、冬休み期間中にロビーで抹茶体験会を開催し、23人（大人10人、子ども13人）参加し子どもから大人まで幅広い年代の参加につながった。またサロン団体からの提案により、東コミュニティセンターにおいて実施したクリスマスロビーコンサートでは29人が来場しサロン団体の主体的な活動機会の創出および活動の活性化につながった。さらにコミュニティ通信のサロンお知らせ欄に、活動の様子や雰囲気や写真が掲載し活動の周知および参加促進を図った。

卒業対象団体については、自立に向け専用団体として活動を継続できるよう支援を行い、継続的な地域活動の推進につながった。またボランティア活動の幅を広げる支援を行い、地域におけるボランティア活動の活性化を図った。



抹茶体験会の様子

【周知】

サロンの開催情報について、パートナーシップ活動支援センター（以下：PSセンター）ホームページのイベントカレンダーおよびコミュニティ通信に掲載し、サロン活動の周知および参加促進を図った。また、コミュニティセンターのイベント情報とサロン情報を掲載した「PSカレンダー」を毎月公民館へ掲示し、地域住民の周知機会の拡大につなげた。さらに各サロンの活動内容を動画で紹介し、Instagramで配信を行った。その結果、令和8年2月末時点でのフォロワー数は**661**となり、幅広異世代への情報発信およびサロン活動認知度向上につながった。

またサロンボランティア募集情報を市報に掲載するとともに、館内へポスターを掲示したところ「サロンを始めてみたい」「自分の特技を生かして地域貢献したい」など17件の相談があり、新たな担い手発掘につながった。



PSホームページの
イベントカレンダー



Instagram



Instagram記事内容

成 果

新規サロン数
目標 5サロン

1サロン
(総数 15サロン)
前年5サロン

達成率**20%**

参加者数
目標 5,000人

3,340人
前年4,508人

達成率**67%**

新規ボランティア数
目標 35人

8人
前年22人

達成率**23%**

周知件数
目標 455件

472件
前年455件

達成率**104%**

※相談件数は**17**件（新規登録1団体）あったが、サロン総数が目標未達となったため参加者数も減少した。そのため、事業の方向性を保ちながら参加、登録につなげる方策の検討が課題である。

課 題

- ・事業の趣旨に沿った運営ができるボランティアが不足している。
- ・サークル型・教室型の活動希望が多く、事業の趣旨との違いから登録につながりにくいことが課題である。
- ・事業目的の周知・理解促進が課題である。

ランドセルクラブへの出前講座では、新たな工作「プラネタリウム工作」を実施するとともに引き続き「紙コップで作るロボットアーム工作」を開催した。5校から依頼があり、計11回実施したことで、昨年度参加者数308人から今年度385人と**77人増加**し、多くの児童が天体に触れる機会の創出につながった。また、出前講座を通じて、天体への関心向上および青少年の科学体験の充実を図った。



プラネタリウム工作



ロボットアーム工作

成 果

内容	回数	参加者数（前年度）	参加ボランティア数（前年度）
市民星空観望会	24回	735人(862)	184人（130）
季節イベント	6回	516人(783)	68人（35）
天文科学講座	2回	63人(127)	1人（2）
ボランティア養成講座	8回	45人(52)	4人（2）
市内イベント	7回	1344人(369)	9人（0）
ランドセルクラブ出前講座	11回	385人(308)	-
特別開館（彗星・南コミ）	2回	127人(30)	10人（1）
ボランティア交流会	4回	25人(22)	25人（22）
中学校職場体験	1回	5人(13)	-
計	65回	3,245人(2,566人)	301人(192人)

実施回数
目標 65回

65回
前年65回

達成率**100%**

参加者数
目標 4,500人

3,245人
前年2,566人

達成率**72%**

登録ボランティア数
目標 56人

65人
前年54人

達成率**116%**

周知件数
目標 600件

737件
前年602件

達成率**122%**

※参加者数は天候不良の影響により目標未達となったが、ボランティアの参加者数は前年度より増加し、事業運営を支える体制の強化につながった。これにより、観測会の準備や運営の効率化が図られるとともに、今後の事業継続に向けた担い手の確保という点で一定の成果が見られた。また、新たに参加したボランティアが観測機材の操作や来場者対応に関わることで、事業の質の向上にもつながっている。

課 題

- ・参加者の固定化が見られるため、新規参加者の確保および若い世代への周知強化が必要である。
- ・ボランティアの育成および役割分担の明確化を進めるとともに、室内講座等の実施を検討し参加者数の安定的な確保を図る。
- ・学校や地域団体からの依頼が増加していることから、対応体制の強化および効率的な事業運営が必要である。



令和7年度事業計画

- ▶ 審査会の運営に関し、団体及び関係者の意見を踏まえた、より効果的かつ円滑な方法について検討を行う。
- ▶ 他助成事業の視察などを通して、担当者のスキルアップを図る。
- ▶ 助成団体のヒアリングによる、申請方法についての効果を検証するほか、適宜、側面的な支援を行う。

事業報告

《実施状況》

- ・ 担当者会議 8回 作業部会 5回
- ・ 事業実施報告会 1回 ・ 審査会 1回 ・ 決定通知書交付式 1回

【令和7年度助成事業】

事業名	団体名	助成年度	助成金額
傾聴活動	大野城傾聴ボランティア「ダンボ」	3年度	200,000円
地域猫活動	雑餉隈町地域猫の会	2年度	250,000円
子どもによる地域活動の実施・発展を目指した事業	Onojo子どもコミュニティ	2年度	250,000円
Hugスポット ～育む場所を私たちの手で～	一般社団法人 おおのじょうMONO創りLab.	初年度	300,000円
公園、遊歩道の環境整備（草刈り）	瓦田愛郷会	初年度	94,000円

【審査会】

昨年度の課題であった初年度申請の審査方法を、書面審査から対面審査に変更した。これにより団体が事業への思いや今後の展望を直接説明する機会を確保するとともに、審査会委員が団体へ直接質問の回答を得ることが可能となり、事業内容の理解促進につながった。また担当者が団体および審査会委員の事前フォローを行ったことで、当日の質疑応答が円滑に進み、審査の充実および質の向上につながった。



審査会の様子

【担当者のスキルUP】

6月に新人担当者を中心に宗像市の審査会視察を実施した。他市の取り組みや運営方法を学ぶことで、より客観的かつ広い視点で業務に取り組むことが可能となり、地域団体への事例提示や提案の充実につながった。また、1月には宗像市市民協働部を視察し、助成金の枠組みを改善した経緯等について情報収集を行った。これにより申請募集や報告会の在り方についてなど、今後の運営改善に向けた具体的な検討の手がかりを得ることができ、事業運営体制の強化につながった。

【側面的支援】

初年度の新規事業団体2団体に対し、都度面談の実施や活動を視察し事業運営に関する助言を行った。これにより各団体の活動が着実に進展し、支援の広がりおよび事業の安定的な実施につながった。また助成2年目の雑餉隈町地域猫の会については、PSセンターが主催した講座の講師として活躍の場を設けた。これにより団体自身が活動を広く周知し、共感者や協力者を得る機会の創出につながったほか、情報発信の経験を積むことで団体の自立に向けた基盤づくりにつながった。さらに助成団体を通じてまちづくりに関する新たな相談が3件寄せられ、活動に関するアドバイスをを行った。ファンド事業を通じて、PSセンターの団体立ち上げ支援機能の向上および、まちづくりに関する相談窓口としての機能強化につながった。



採択団体を対象に決定通知書交付式を実施し、団体同士の交流を深めることができた。



S N Sでの助成事業紹介をし、団体の活動を広く周知した



「雑餉隈町地域猫の会」による地域猫活動の講座

【事業報告会】

来場者数は昨年度の26人から**38人**と約**1.5倍**に増えた。アンケート結果で内容について「良かった」「やや良かった」の回答が**7割**近くあり、団体の活動に対して共感・応援する意見が多く、各団体の事業報告が身を結んだ形となった。2部では「SDGs時代の持続可能なまちづくりを考える」をテーマに、地域活動や地域（社会）課題に取り組むうえでも大事な個人を尊重した考え方など、SDGsに関する多様な要素を多くの人に知ってもらうことができた。



報告会の様子

成 果

申請件数
目標6件

4件
前年6件

達成率**66%**

団体フォロー数
目標115件

147件
前年112件

達成率**128%**

周知件数
目標210件

368件
前年266件

達成率**175%**

※申請件数は目標未達となったが、助成金に関する相談は7件寄せられ4件が申請。審査の結果3件採択となった。（新規1件）

課 題

- ・幅広い世代（学生を含む）の地域活動参加に向けた周知の強化が必要である。
- ・助成後の団体活動の継続・発展に向けたフォロー体制の充実が課題である。
- ・担い手不足の解消に向け、新たな団体や人材の発掘が必要である。



令和7年度事業計画

- ▶有資格者や職員の知識、スキルを活かしながら地域課題やニーズに寄り添った事業展開を進める。
- ▶多様な主体との連携を深めることで、地域活動の活性化を図り、だれもが参加しやすい環境づくりを目指す。

事業報告

《実施状況》

- ・4地区コミ運協会議**12**回参加
- ・社会福祉協議会・アスカラ・共働のまち大野城とのボランティア情報共有会4回
- ・大野東中学校職場体験（北：2日間・東：2日間）

【職員研修】 ※参加人数は延べ

- ・外部研修：40回 87人参加
- ・内部研修：4回 48人参加
- ・視 察：4回 16人参加

【職員のスキルを活かした活動】



Canva講座



ボランティア受け入れ講座



共働に関するワークショップ

【多様な主体との連携・環境づくり】

1月18日（日）福岡県委託事業「コラボミーティング」実施 **36**名参加



共働について事例を紹介しながら説明し、ワークショップを通して多様な主体の専門性からくる強みを活かし、それぞれができることを考えるとともに、新しい視点を発見する機会となった。また、参加者同士の交流を図る場をもうけ、新たな共働の創出のきっかけづくりとなった。

【コミュニティ運営協議会との連携】

コミュニティ運営協議会と連携し「つなぐフェス@東コミ」および「南っ子すもうフェス」の開催支援を行った。事務局会への参加や事前調整を行い、地域団体と協働によるイベント運営に取り組んだ。また、当日は弁当販売、会場設営、駐車場整備等の運営支援を行い、円滑なイベント運営に寄与した。

■つなぐフェス@東コミ

実施日：11月16日（日）開催

参加者：1,290人（大人820人、子ども470人）

- ・協賛として参加
- ・委員会での企画協議
- ・マルシェ企画の実施
- ・会場設営等
- ・イベントチラシ作成支援、広報支援



つなぐフェス@東コミ

■南っ子すもうフェス

実施日：10月25日（土）開催

参加者：400人（大人285人、子ども115人）

- ・協賛として参加
- ・事務局会での企画協議
- ・弁当販売の実施
- ・会場設営および駐車場整備



南っ子すもうフェス

成 果

地域イベントの企画段階から運営まで参画することで、コミュニティ運営協議会および地域団体との連携強化につながった。また、「つなぐフェス@東コミ」では**1,290**人の参加があり、世代を超えた交流機会の創出および地域コミュニティの活性化に寄与した。さらに、地域団体と役割分担しながらイベント運営を行うことで、地域主体による活動の促進および担い手育成につながった。加えて、イベント運営を通じて地域内の関係づくりが進み、今後の地域活動の基盤強化にもつながった。今後もコミュニティ運営協議会との連携を継続し、地域主体のイベント運営支援を行うとともに、新たな担い手の発掘および地域活動の活性化を図る。

課 題

- ・地域住民やコミュニティ運営協議会、地元企業等の多様な主体をつなぎ、役割分担を図りながら地域全体で支える体制づくりが必要である
- ・地域・企業・団体等との継続的な関係構築と新たな担い手の発掘が課題となっている。



令和7年度事業計画

- ▶職員全体のスキル向上および意識改革を図るため、先進事例地への視察や研修の積極的な参加を促進する。
- ▶「地域活動団体紹介カード」のより効果的な活用方法について検討し必要に応じた見直しを行う。
- ▶「まちづくり相談会」、「相談WEEK」を定期的開催し、中間支援組織としての機能の充実化を図る。
- ▶地域づくりの担い手となる個人・団体を支援するため、必要とされる知識・スキルの習得を目的とした講座の企画及び実施を行う。

事業報告

- ・市民活動に関する相談会 10回
- ・地域活動団体紹介カード…団体の設置
- ・まちづくりに関する相談 113件
- ・周知件数 15件
- ・担当者会議 6回

【スキルUP】

- 外部研修 34回 ・長崎市市民センター「ランタナ」・防災士研修 ・AI研修など
- 内部研修 4回 ・不審者対応訓練 ・AED普通救命講習 ・予防保全型維持管理委員会
- 視察研修 4回 ・ミリカローデン那珂川 ・福津市 キッカケラボ

【地域活動団体紹介カードの活用】

「地域活動団体紹介カード」を活用し、2週間ごとに3団体ずつ順にピックアップして紹介を行った。これにより地域活動団への注目度の向上を図った。その結果「団体を紹介して欲しい」といった要望が寄せられるなど関心の高まりが見られ、紹介カードを手にする市民の増加につながった。また、地域団体の紹介およびボランティア活動の推進につながる取組みとして活用が進んでいる。

成果



【機能強化】

相談会を2回、相談WEEKを各PSセンターで2回ずつ実施し、「まちづくりに関する相談窓口」としてPSセンターの周知を図った。その結果「ボランティアを増やしたい」「活動の始め方」などに関する相談が計**113**件寄せられた。寄せられた相談に対して関係機関や地域団体の紹介など適切なつなぎを行ったことで、相談対応の充実および中間支援組織としての機能強化につながった。

まちづくり相談内訳件数

個人	団体	企業	行政	区	学校	その他	合計
70	27	1	6	6	3	0	113

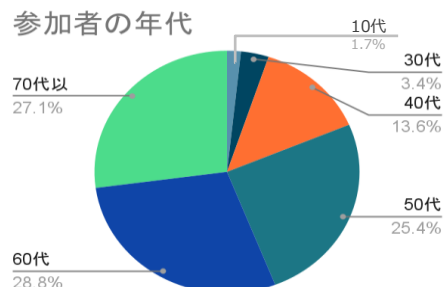
相談内容別件数（重複相談含む）

ボランティア情報	出前講座依頼	NPO設立関連	団体運営	指定管理	共働	事業講座開催	その他	合計
7	2	1	12	69	6	8	21	126

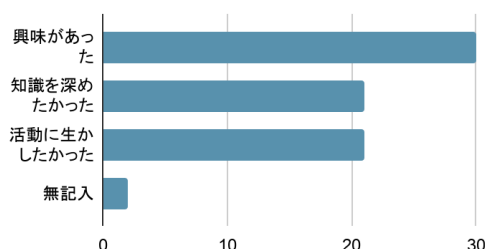
【地域活動支援】

地域の担い手となる個人および団体の支援を目的として「地域力UP！サポートメニュー」を4回開催した。講座は、職員が外部研修で得た知識や資格を活かした内容とし、研修成果を地域へ還元する機会の創出につながった。参加者アンケートでは、「知識向上につながった」「今の自分からバージョンアップしたかった」などの意見があり、担い手育成に対するニーズの高さが確認された。今後もアンケート結果や地域のニーズを踏まえ、担い手育成を目的とした講座の充実を図り地域の活性化につなげる。

参加者の年代



参加した理由を教えてください



第1回『簡単！初めてのCanva講座』
8月1日(金) 20人



第2回『「自助と共助」
コミュニティのある地域
づくりで災害にそなえよう』
9月21日(日)20人



第3回『地域猫活動はじめませんか？』
9月6日(土)15人



第4回『“来てよかった”を生
むボランティア受入れ講座』
11月22日(土) 12人

課題

- ・多様化する相談内容に対応するため、相談対応体制の充実が課題である。
- ・相談窓口としての認知度向上に向けた周知の強化が必要である。



令和7年度事業計画

- ▶令和6年度に構築した発信方法を活かし、フォロワー及び閲覧数の増加を目指したブランディングの強化を図る。
- ▶法人や指定管理に関する情報に加え、地域団体に関する計画的な情報発信を行うことで地域活動の周知および連携促進に努める。

事業報告

《実施状況》

- ・担当者会議 6回
- ・広報研修参加 延べ29人
- ・助成金情報提供回数 ホームページ 27回 インスタグラム 46回

【ブランディング強化】

ホームページおよびSNSの表示画面や文言を統一し、より見やすく分かりやすい情報発信となるよう改善を行った。また、記事の作成から掲載までの管理体制を整備し、統一感のある情報発信を実施した。それにより閲覧数およびフォロワー数の増加につながり、効果的な広報ツールとしての機能強化を図ることができた。

【地域活動の周知・連携】

地域イベント情報やコミュニティセンターでの催し、各事業の取り組みについて積極的に周知を行い、地域のにぎわいづくりおよび地域活動の促進に努めた。また、地域団体に関する情報発信として、ファンド事業では決定通知書交付式の様子を発信するとともに、報告会前には団体の活動紹介を順次発信し、市民が地域活動に興味・関心を持つよう工夫を行った。さらにプラットホーム登録団体やサロン事業についても、活動に取り組む様子を年間を通じて計画的に発信し、団体同士の連携および市民と団体のつながりの強化に努めた。

成果

<p>LINE ターゲットリーチ 目標500人</p> <hr/> <p>502人 前年438人 達成率100%</p>	<p>Instagram 閲覧数 目標11,000PV</p> <hr/> <p>14,069PV 前年9,965PV 達成率128%</p>	<p>INSTAGRAM フォロワー数 目標550人</p> <hr/> <p>673人 前年450人 達成率122%</p>	<p>Facebook 閲覧数 目標4,500PV</p> <hr/> <p>3887PV 前年4,285PV 達成率86%</p>
---	--	--	---

課題

- ・対象者に応じた効果的な情報発信の強化が課題である。
- ・継続的かつ計画的な情報発信体制の構築が必要である。
- ・事業参加や利用につながる情報発信の工夫が求められる。



令和7年度事業計画

- ▶新規登録者の増加を目的として、効果的な情報提供及び関係機関との連携体制の強化を図る。
- ▶利用者満足度の向上を目指し、電話注文の方法及びカタログの見直しによる業務の効率化を推進する。
- ▶買い物困難者支援の充実を図るため、買い物支援ガイドブックの更新並びにお届け便の周知活動を強化する。

事業報告

「実施状況」

- ・イオン大野城・行政との三者会議4回
- ・担当者会議5回 作業部会2回
- ・買い物代行「ごきげんお届け便」カタログ作成・配布4回
- ・事業説明会10回

【情報提供・関係機関との連携】

二層会議において、区長および民生委員と買い物困難者の状況を共有するとともに、PSセンターの買い物支援事業について説明し、地域課題の認識の共有を図った。

社会福祉協議会との情報交換会においても事業内容を説明を行い、弁当配食サービスや社協バスを活用した買い物支援の取り組みについて情報提供を受け、今後の支援の参考とした。

【利用者満足度の向上と業務効率化】

利用者満足度向上および業務効率化を目的として、過去の注文実績をもとに商品を再整理し、イオンと協議のうえカタログ内容の見直しを行った。取り扱い商品をカタログ掲載品に限定し、商品名および商品番号による注文方式に統一したことで、1件の注文にかかる対応時間が平均30分から**15分**へと短縮した。また、誤注文の防止、業務の標準化により、利用者ニーズへの対応と業務効率化を両立する体制の整備につながった。

【買い物支援の周知】

SNSやコミュニティセンターのホームページ、各区および医療機関を通じた情報発信を行い、買い物支援事業の周知を図った。また市が実施する「まちぴか統一行動」や「御笠川フェス」でチラシ**750部**を配布し、幅広い層への周知を行った。

さらに新規登録者向け案内チラシの内容を整理し、シンプルでわかりやすいデザインへと刷新したことで、初めて利用する市民にも伝わりやすい環境を整備した。これらの取り組みにより、地域住民が買い物支援に関する情報へアクセスしやすい環境の整備につながった。



令和7年度刷新したお届け便のチラシ

【買い物支援ガイドブック】

買い物支援の利便性向上を目的として、令和7年7月に買い物支援ガイドブックの更新を実施した。従来のA4サイズから、より手に取りやすいA5サイズへ変更し、**1,500部**を発行した。

- ・新規掲載店舗の拡充を図るため、市内外併せて45店舗へ掲載の打診を行った。その結果**4**店舗が新規掲載となった。
- ・既存掲載店舗60店舗に対して継続意向および内容の訂正等について聞き取りを行い11店舗については閉店等の理由により掲載を中止した。

【掲載状況】

- ・掲載打診：45店舗 → 新規掲載：4店舗
- ・既存掲載：60店舗 → 掲載中止：11店舗
- ・最終掲載：**53**店舗

これらの取り組みにより、地域の買い物環境に関する最新情報を整理し、市民が活用しやすいガイドブックとしての充実を図ることができた。



令和7年度作成したガイドブック

成 果



一方で、カタログ掲載品のみへの対応としたことにより、カタログ外商品の注文ができなくなったことから、年間注文数は前年度959件から825件へ減少した。また新規登録者数は目標30人に対し28人にとどまったことから、今後は周知方法の見直しや登録のみにとどまっている人への利用促進に向けた取り組みの強化が必要である。

※お届け便の登録者**139**人に対し実際の利用者約**30**人

課 題

- ・新規登録者数が前年より増加しているものの目標には達しておらず、事業の認知度向上に向けた周知方法の見直しおよび強化が課題である。
- ・登録者に対する利用促進の働きかけが必要である。
- ・関係機関との連携強化による対象者（買い物困難者）の把握が課題である。

令和7年度事業計画

- ▶多様化する利用者のニーズに対応したイベントやサービスの継続。
- ▶緊急時の対応力を高めるため、積極的な研修の参加を推進し防災・防犯の取り組みを強化する。
- ▶施設の老朽化に伴う修繕対応を迅速に行うための業務プロセスの見直しによる効率化を図るとともに、適正な人員配置を検討し体制の強化を進める。

事業報告

《実施状況》

・担当者会議	12回	・まどかぴあ図書館団体貸出	44回
・防災・防犯研修	11回	・ロビーコンサート	7回
・視察	1回	・夏休みこどもシールラリー	4回
・予防保全型維持管理委員会	4回	・展示会・キッズ画伯展	3回
・絵本のおはなし会	16回		



展示会の様子

【ニーズに沿ったサービス】

「絵本のおはなし会」や「夏休みこどもシールラリー」など利用者ニーズに沿ったサービスを継続的に展開したことで認知度が向上し、イベントへの参加者数の増加につながった。絵本のおはなし会では九州大学の留学生ボランティアの協力のもと国際交流の場を創出し、国際交流の拡充を図ることができた。また、コミュニティセンター利用者によるロビーコンサートや作品展示会を実施し、地域交流の促進や団体活動の場の提供、活動意欲の向上に寄与することができた。さらに、夏休みにはロビーにおいて子どもによるキットパスアートの装飾（キッズ画伯展示会）を行い、利用者参加型の空間演出を実施した。これにより施設の賑わいを創出し利用者満足度の向上につながった。

内容	回数	参加者数（前年度）
絵本のおはなし会	16回	312人（314人）
ロビーコンサート	7回	246人（25人）
夏休みこどもシールラリー	4回	1,066人（919人）
ロビー展示会	2回	316人（ - ）
キッズ画伯展示会	1回	117人（ - ）
計	30回	2,057人（1,258人）



キッズ画伯展示会



ロビーコンサートの様子



留学生による絵本のおはなし会の様子



絵本おはなし会の様子

【業務の効率化】

修繕業務については、内容を明確に記録するため報告書様式を統一し、記入項目の整理や重複の削減を行うことで、業務の効率化を図った。これにより、修繕内容の共有が円滑となり、迅速な対応につながった。また、視察で訪れた「ミリカローデン那珂川」を参考にした掲示方法や受付手順の簡略化などを取り入れ、人員配置については利用状況に応じて見直しを行い、混雑時には人員を増やし、閑散時には必要最少限の配置とするなど、適正な人員配置を実施した。これにより、利用者サービスの向上と効率的な施設運営につながった。



視察(ミリカローデン那珂川)の様子

【緊急時の対応力向上】

■不審者対応訓練実施

実施日：5月20日 場所：北コミュニティセンター 参加者：18人

不審者発見時の初動対応、来館者の安全確保、警察への通報および職員間の連携方法について確認を行った。その結果、緊急時における役割分担や対応手順の課題が明確となり、改善点を整理したうえで各コミュニティセンターへ共有をした。また、手順や判断に迷った際の連絡先については、訓練に参加していない職員にも共有し、組織全体の対応力強化を図った。これにより、防犯意識の向上および緊急時の対応強化につながった。



訓練の様子

【予防保全型維持管理委員会】

施設管理部職員で各コミを巡回点検・確認を行い、施設および設備の老朽化や不具合を確認し、行政に対し修繕や更新の要望を提言した。

成 果

利用者数
目標460,000人

547,717人
前年 457,810人
達成率 **119%**

稼働率
目標49%

50.6%
前年 48.5%
達成率 **+1.6%**



手作りの館内装飾(風鈴)

※令和7年11月より4ヶ月間、北コミの一部施設が空調工事の影響で利用が減少したが、他の部屋や他施設を案内したことで目標を達成することができ、稼働率も向上した。

【利用者アンケート】令和8年1月実施

修繕などの対応を迅速に行ったことで、施設管理に関する利用者満足度は「非常に満足」が**44.6%**となり、昨年に続き40%以上を維持した。職員の接客については「非常に満足」が**54.2%**と高い評価を得ており、適切な利用者対応が図られている。

対象：4コミ施設利用者 回答：661人

内容	結果
設備の整備状況 (非常に満足)	44.6%
職員の接客態度 (非常に満足)	54.2%

※5段階の最高評価

課 題

- ・利用者ニーズに対応した施設運営およびサービスの充実の継続が必要である。
- ・利用者の安全確保のため、防災・防犯体制の強化および職員の対応力向上が課題である。
- ・利用者数の増加に対応するため、業務の効率化を図る必要がある。
- ・新規利用団体の開拓および利用促進に向けた周知の強化が課題である。

その他目的を達成するために必要な事業

11

自主事業

令和7年度事業計画

【法人自主事業】

- ・福岡県委託事業「コラボミーティング」実施
- ・オリジナルTシャツ販売 5月～
- ・SORA-Qイベント ・講師派遣

【指定管理に関する自主提案事業】

- ・プレイスアミーゴ ・ロビーコンサート
- ・絵本のおはなし会 ・夏休み子どもシールラリー
- ・子ども商店街キッズフリーマーケット

事業報告

【共働のまち大野城自主事業】



オリジナルTシャツ販売



県委託事業
「コラボミーティング」実施



講師派遣 2/28 (土) 参加者31人
中村学園大学にてCanva講座を実施

【自主財源】

自動販売機手数料収益	1,646,569円
オリジナルTシャツ販売	92,750円(仕入れ265枚完売)
会費・寄付金	480,791円 正会員 : 個) 33人 団) 29団体 賛助会員 : 個) 75人 団) 8団体
県委託事業	440,440円

【指定管理に属する自主提案事業】

【生涯学習講座系】

事業名	実施日	参加者	参加ボランティア
子ども商店街キッズフリーマーケット	10月5日(日)	370人	—
はじめてのCanva講座	12月5日(金)	20人	1人

【コミュニティセンター利用促進】

事業名	実施回数	参加者	参加ボランティア
PLACE AMIGO	1回	21人	3人
絵本のおはなし会	16回(各コミ4回)	312人	19人
夏休み子どもシールラリー	4回(各コミ1回)	1066人	—
ちびっこ画伯展	1回(中央)	117人	—
ロビーコンサート	7回(北5回・中央2回)	246人	—
展示会(書道、手まり等)	2回(北1回・東1回)	316人	—
SORA-Q操作体験	1回	47人	—

課題

- ・参加者数の安定的な確保および収益性の向上が課題となっている。
- ・地域ニーズに応じた事業内容の検討や広報の強化が必要である。
- ・地域団体やコミュニティ運営協議会、地元企業等と連携し、持続可能な自主事業の展開を図る必要がある。

活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人共働のまち大野城

自 令和7年 4月 1日 至 令和8年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費	303,000	
賛助会員受取会費	176,000	479,000

【受取寄付金】

受取寄付金		1,791
-------	--	-------

【受取助成金等】

受取補助金		153,532,099
-------	--	-------------

【事業収益】

自主事業収益	576,800	
受託事業収益	72,031,180	
事業収益	514,400	
施設使用料収益	30,095,340	103,217,720

【その他収益】

受取 利息	177,294	
雑 収 益	1,846,874	2,024,168

経常収益 計

259,254,778

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業)	120,875,191	
法定福利費(事業)	13,217,830	
福利厚生費(事業)	551,593	
人件費計	134,644,614	

(その他経費)

委託費(事業)	37,761,524	
諸 謝 金(事業)	190,500	
会 議 費(事業)	49,190	
旅費交通費(事業)	46,350	
通信費(事業)	2,784,550	
消耗品 費(事業)	10,129,037	
修 繕 費(事業)	860,919	
使用料(事業)	1,496,903	
水道光熱費(事業)	31,100,157	
減価償却費(事業)	240,442	
保 険 料(事業)	246,503	
保守点検料(事業)	10,787,590	
研 修 費(事業)	152,000	
支払手数料(事業)	20,005	
支払助成金	1,057,000	
その他経費計	96,922,670	

事業費 計

231,567,284

【管理費】

(人件費)

役員 報酬	2,400,000	
給料 手当(管理)	14,775,285	
法定福利費(管理)	2,263,793	
福利厚生費(管理)	78,352	
人件費計	19,517,430	

(その他経費)

会 議 費(管理)	395,130	
旅費交通費(管理)	13,420	
研修費(管理)	1,000	
通信費(管理)	55,162	
消耗品 費(管理)	144,057	
使用料	3,600,613	

活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人共働のまち大野城

自 令和7年 4月 1日 至 令和8年 3月31日

修繕費	176,269		
保守点検料	69,300		
保険料	641,310		
諸会費	126,500		
委託費	67,243		
租税公課(管理)	119,084		
支払手数料(管理)	1,575,263		
法人税等	98,149		
その他経費計	<u>7,082,500</u>		
管理費計		26,599,930	
経常費用計			258,167,214
当期経常増減額			<u>1,087,564</u>
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引後当期正味財産増減額			<u>1,087,564</u>
当期正味財産増減額			1,087,564
前期繰越正味財産額			<u>33,772,169</u>
次期繰越正味財産額			<u><u>34,859,733</u></u>

貸借対照表

NPO法人共働のまち大野城
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和8年 3月31日 現在

《資産の部》			
【流動資産】			
(現金・預金)			
小口 現金	284,816		
窓口現金	1,057,460		
事業小口	53,900		
普通 預金	49,047,549		
JAバンク	4,588,616		
ファンド特定資産	8,185,715		
現金・預金 計	<u>63,218,056</u>		
(売上債権)			
未 収 金	2,196,264		
売上債権 計	<u>2,196,264</u>		
(その他流動資産)			
前払 費用	49,200		
立 替 金	8,580		
その他流動資産 計	<u>57,780</u>		
流動資産合計		65,472,100	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什器 備品	5		
有形固定資産 計	<u>5</u>		
固定資産合計		<u>5</u>	
資産合計			<u>65,472,105</u>
《負債の部》			
【流動負債】			
未 払 金	27,841,927		
前 受 金	97,000		
預 り 金	1,194,315		
仮 受 金	1,296,930		
未払法人税等	71,000		
未払消費税等	111,200		
流動負債合計	<u>30,612,372</u>		
負債合計			30,612,372
《正味財産の部》			
前期繰越正味財産		33,772,169	
当期正味財産増減額		<u>1,087,564</u>	
正味財産合計			<u>34,859,733</u>
負債及び正味財産合計			<u>65,472,105</u>